令和５年度一関市汚水処理計画推進会議　会議録

１　会 議 名　令和５年度一関市汚水処理計画推進会議

２　開催日時　令和５年11月８日（水）午後１時30分から午後３時30分

３　開催場所　一関市役所千厩支所　大会議室

４　出 席 者

⑴　委　員　菅原繁雄委員(会長)、金野幸弘委員(副会長)、千葉和子委員、
千葉理恵委員、橋本京子委員、三浦正勝委員、皆川かおり委員、
吉田浩和委員

※欠席委員　石川晃委員、伊藤峰雄委員、

⑵　事務局　佐藤孝之上下水道部長、小山力上下水道部次長兼下水道課長、
鈴木智上下水道部次長兼東部上下水道課長、
菅原佳下水道課長補佐兼下水道工務係長、
西山亜希恵下水道課長補佐兼下水道経営管理係長、
鈴木真実下水道課普及係長、鈴木圭東部上下水道課下水道係長、
加藤智子下水道課主査、佐々木崇下水道課主事

５　公開、非公開の別　公開

６　傍 聴 者　なし

７　あいさつ

本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます。

この会議は御存知のとおり、一関市汚水処理計画の進捗管理や評価について意見をいただく機関として設置されております。汚水処理計画については、昨年度に中間評価をし、目標指標の見直しや課題の洗い出しを行い今後の取組を改訂したところです。

本日の会議では、目標指標の達成の度合い、昨年度の取組や今後の取組などを事務局から説明を受ける予定です。本日も皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいので、よろしくお願いします。

また、本日は千厩浄化センターを見学することになっています。処理場の中に入る機会はあまりありませんので、皆さんから様々質問をしていただいて、汚水処理を理解する有意義な見学になればと思っています。

本日はよろしくお願いします。

８　審議内容

⑴　一関市汚水処理計画の進捗と取組について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

会　長　事務局の方からは、取組など様々な説明があったが、特に普及率が非常に低い、低いというよりも頑張ったけれども上手くいかなかったということである。そこで、水洗化の普及促進について皆さんの方から意見や質問、こうした方がいいのではないかというお話を今日は頂きたい。

委　員　様々普及活動に力を注いでいるということだが、高齢化で普及に限界があると思うがいかがか。

事務局　確かに年配の方々から、後継者がいない、お金もかかるのでこのままでいいという話を受けることがある。そういった点では難しいと思っている。もっと若い年代層を中心にやっていった方がいいのかと考えたりもするが、年代を絞るかどうか、その辺は課題と考えている。

委　員　後継者が東京方面などに行ってしまうと、水洗化したいが将来もずっと使用するのかどうかと考える。

会　長　高齢者、後継者、非常に根の深い話である。ではどうするか。具体的にどうするという、現在の状況をまず乗り越えていくといった形の話を伺いたい。

委　員　この会議に参加して、様々な普及活動をしていると感じる。令和５年度に新しい取組として、千厩の産業文化祭でもＰＲをしているのは知っていたが、それでも普及率があがらないのは、人口が減少しているなど様々な原因はあるかと思うが、もう一歩踏み込んだ普及活動が必要なのではと感じている。例えば、戸別訪問などもすごく大事だが、下水道を接続するかどうかの問題は、一番は金銭面と思う。

　本当は接続した方が様々な面でいい事は皆さんご存じだと思うが、どれくらい費用がかかるのかが気になっている部分だと思う。そのために、見積りを簡単に出してもらえることが必要と思う。見積りを簡単に無料で出してあげて、大体これくらい費用がかかるという目安があるとすごく動きやすいと思う。想像で「あそこはいくらかかった」などと言うことはあるが、自分の家の場合はどうなのか。業者に見積りをいただきたいと言うと、実際の工事まで繋げないと悪いと思ってしまう。確実な計算ではないが、大体このお宅だとこれくらいかかる、何メートル以上は補助金が出るなどというような話ができればよい。そうは言っても、自分の家が何メートルあるか分からないという人が多いと思うので、その辺も一歩踏みこんだ普及活動をしてみてはどうか。

会　長　非常にわかりやすい、もう一歩踏み込んだというキーワードがよいと思う。

委　員　子ども達がみんな家を出ているが、高齢の夫婦でこの間汲み取りから下水道に繋いだ家がある。繋いだから誰か若い人たちが帰ってくるのかと思っていた

ら、そういうことではなく率先して下水道につないでくれた。高齢者世帯にも関わらず、１人でも設置したことの意味は大きいとうれしく思っている。

新しく住宅を建てる時には、浄化槽や下水道に繋げなければならない条例など何か法的な規制はあるのか。

事務局　新築の場合は建築確認が必要であり、下水道区域の場合は水洗にしなければならないとなっている。下水道区域外の汚水処理については、浄化槽もしくは汲み取りということになっている。こちらは選べる。

委　員　普及率を高める方法としては、まだまだ考える余地はあると思う。１つは、行事の中で見積りを行うという話があったが、基本的には来場者が下水道地域に住んでいるのであれば、地図で公共ますからどれくらいのところに自分の家があるかわかると思うので、そういった地図を描きながら概算でこれくらいかかるというのであればわかりやすいような気がする。

もう１つは、ただ個人が下水道や集落排水に入るというわけではなく、基本的には組織があると思う。その組織と組織の普及範囲以内の世帯が大方わかるのではないかと思うので、組織と連携してまだ宅内排水が未整備の方へ、今整備するならこれくらいかかるといったものを一緒に何かお知らせしていければ、令和８年度までの目標値に対していくばくかのプラスにはなるのではないかという気がする。

市、行政だけでは普及率を上げるのは正直言って大変なことではないかと思うので、我々受益者の組織も市と一緒になって、地区内の方々に何かしら情報提供するようなスタンスをとっていかないと、令和８年度の目標値に対してのプラスアルファはなかなか大変な数値と見ている。そういった意味では、市だけ頑張ってくださいではなく、我々受益者の代表者の人たちも一緒になってそれに参加し、ＰＲするということが求められているのかと感じた。

会　長　先ほどの見積額が早く簡単にわかる方法として、検索ソフトやネットもあり、考えてみれば様々できると思う。もう一つ大事なことは、行政だけでなく地域、もしかすると町内会や組合かもしれないが、一緒にやる方法をということでもっと踏み込んでの話を頂いた。１点気になったのは、水洗化は高齢者にとっても便利と聞こえた。若い人たちも使う、高齢者にも便利であればその点からの普及方法もあるのではないかと思った。かなり踏み込んだ話を頂いた。高齢者にとっても利点というのは何かあるか。

委　員　汲み取りになると周囲に対しての臭いや汲み取りの時に臭う、そろそろ頼まなくてはいけないなどの管理があるが、下水道はそういう心配をしなくていい。

もちろん、上下水道となり料金が高くなるが便利なことは便利である。

委　員　今の話で、下水道や浄化槽を導入した場合と汲み取りの場合の良いところと悪いところがわかるような、何か資料みたいなのがあると高齢の方でも取り組んでみようかと思うのでないか。

委　員　計画目標の環境・快適・維持、これに全て含まれている。地域の中で生活していくためには、汚水を含めて隣近所に迷惑をかけたくないと感じていると思う。そのため、目標には快適性というのが出てくるし、維持というのは安心感や清潔感ということである。それが汲み取りの場合は、一定時期はある程度平穏かもしれないが、環境が悪化すると臭いが発生し汲み取りを頼まなければならないというところで、周りに迷惑をかける場合がある。下水の場合はそういったものがなく、恒久的に年をとっても清潔感のある潤いのある生活ができ、その対価としての使用料で我々は生活していると思う。清潔や環境に配慮などというところが大きいのでないか。

委　員　10 万円、20 万円ではなく何百万円とかかることだから、実際は取り組む家はなかなかないが、人生 100 年時代を快適なところで過ごしたいと思えば、お金をかけるかもしれない。

委　員　私の家でも子ども達は全員が外に出ているので、妻と 60 代の二人生活である。高齢者だから何もしない、高齢者だからダメであるというのではなく、地域の中で高齢者が１人にならないように支援できるかが地域の課題としてある。今お話ししたように、水回りは台所であってもお風呂であってもトイレであっても基本的にお金はかかる。私たちは組織として集落排水にする時に、地域で合意形成を図ってスタートした。高齢者のところは、できれば一緒にやりませんかと言うくらいである。お金はかかるかもしれないが、やるときに整備したほうが、平等感があっていいという程度だった。まだ下水道や浄化槽で汚水処理をしていないところに対しては、市だけではなく我々地域の受益者組織も一緒になってできるならいいが、費用が多くかかるとなったときには、我々はもう少し検討してみてくださいとしか言えない。

委　員　地元業者が、何軒かまだ下水道に接続していない、浄化槽がないところの５軒などをまとめて皆さんと一緒にやりたいといった場合に、何か割引のような制度があったら取り組みやすいのではないかと思った。

事務局　浄化槽には、グループ補助金というのがあり、２戸以上の方が個別につけて共同で実施する場合には、普通の補助金に対して上乗せしている。

委　員　下水道の本管が入った場所には、公共ますが入るとＰＲされている。そうし

た場合に、何年以内に接続すれば補助するなどはあるか。

事務局　排水管が長い場合に補助制度があるが、それ以外は今のところはない。

委　員　いつでも接続できるというようなＰＲは特にしていないか。

事務局　下水道の工事をする際に公共ますの説明をする。その際にも、下水道は３年以内に接続するというのが決まっているので、そこでＰＲする。また、工事が終わった際に、騒音などでご迷惑をお掛けしましたという文書を出すが、その中にも繋げる状況になりましたので、ぜひ繋いで下さいという案内はしている。

委　員　３年以内に接続した場合に、特に補助を出すというのはないか。

事務局　ない。

委　員　逆に言えば、公共下水道の整備済みのところや、集落排水整備済みの地域で公共ますに接続していないところを把握しているのであれば、積極的にそこに働きかけて普及率を上げていくというのは、時間はかかるが可能かと思う。

会　長　行政もやるが組織としても何かやるということか。組織と行政で一緒にやる方法があるのであればいい。普及率が上がれば組織のトップの方も達成感がある。

委　員　未整備世帯がどれくらいあるか地元の方がわからないということもある。

委　員　９ページの未接続世帯に戸別訪問とあるが、ターゲットはあるのか。

事務局　現在整備している一関地域を考えている。これまで新型コロナウイルス感染症の関係もあり、戸別訪問ができなかったが再開する計画をしている。工事が終わって３年以内に接続しなければならないということもあり、供用開始後３年を経過した地域で、まだ接続していない世帯に対し接続のお願いをする。具体的には、山目、萩荘、赤荻辺りを予定している。

事務局　３年以内に設置した場合の優遇措置の話の補足だが、今行っている接続促進事業費補助金は、供用開始後３年以内に設置した場合が対象で、それを過ぎると対象にならない。

会　長　どうやってコミュニケーションをとって、組織を巻き込むのか。

委　員　組織としては年１回、施設の維持管理の中で予算決算があるので、そういった総会時に合わせて、市と何か取組ができるのであればそのタイミングになると思う。

会　長　設置費用の見積りなどがすぐにわかるようなものは何かあるか。

事務局　市のホームページには簡単なシミュレーション、トイレが１階にあるなどの選択方式によって工事金額の概算が出るものがある。

委　員　それ自体あることが知らなかったのでそこも普及面かと思う。私たちも地域

も一緒になって取り組まなければならないと思う。普段のお茶飲みの中でも、下水道の話や汚水の話などが出るようなレベルまで普及していくには、地域単位での取組が必要と思う。地域にはたくさんコミュニティがあると思うが、そのレベルで話が出るような普及方法がないか。コミュニティの中で働きかけて、小さい単位から拡げていくのが一関市の普及には一番必要と思う。

会　長　促進の方は様々検討いただくことにして、その他全体的な意見や質問はあるか。

委　員　13ページのストックマネジメント計画について教えていただきたい。

事務局　今ある下水道の設備が老朽化していくと不具合が出てくる。全てが故障してしまうと汚水処理に影響が出てくるので、計画的に補修や更新をしていく必要がある。そのためにどのような点検をするか、どのような管理をするかという計画や、その点検によって向こう５年間に整備改修をする設備などを定めた計画である。この計画に基づいて修理点検を行い、不具合があれば国の補助を受けながら更新を行っていく。

委　員　市が令和６、７年度にストックマネジメント計画を策定するということか。それは外部の委託業者に頼むということか。

事務局　業者へ委託し設備点検などをして状況を把握し、今後改修が必要な部分をピックアップして進めていく。

委　員　今後の安定的な経営について、一関市の水道料金が長期的な経営に立って見直しが進められ、今後も何年か後には料金改定が計画されていくと思う。下水道の今後の効率的な安定した経営への取組として、適正な使用料の検討とあるが、これは具体的に何年後と検討しているのか。差し迫って料金の改定があるのかどうかお聞きしたい。

事務局　料金の改定についてはこれから検討していく。具体的な話はこれからであり、料金の改定時期についても併せて考える。

委　員　基本的には令和６年度に改定はないということでよろしいか。

事務局　令和６年度はない。

会　長　料金改定の話は、事前に皆さんにわかるように検討するのか。

事務局　現時点ではいつ上げるかというのはない。令和８年度までにどのように使用料の見直しをしていくか、上げる時期など見直しの考え方を決めるという段階である。令和８年度という目安を置いているのは、現在の下水道整備拡張が概ね令和８年度で終わるということから、使用料の考え方もまとめたいという状況である。

会　長　16ページの下水道資源の有効活用の推進について、ガス、汚泥を活用して市の方で汚泥から収益を上げるなど考えているのか。

事務局　国から汚泥の肥料化について検討するように言われているが、市で汚泥を肥料化して販売収入を得るなど含めて検討している段階である。肥料化するためのコストや実際に販売する金額などの課題があるので、今後どうしていくか検討を進めている。

会　長　検討ということだが、価値はあるという見方でよいか。

事務局　コスト面と効果面を考えながらやっていかなければならないと思う。

委　員　実際にはバイオマスは売れるのか。処理施設から出るガスで、それが売電としてなり得るか。

事務局　大きくない施設なので、ガスが出たとしても売電するほどの量が発生しない。

委　員　汚泥であれば、農地への還元などへ可能かと思う。

事務局　汚泥であれば、発酵させてコンポスト化して肥料という方法もあるが、肥料化するための費用が結構かかる。

委　員　藤沢だったら堆肥センターへ持ち込んで、コンポストにして各自治会に安価で売るなどそういう循環型を検討してもらいたい。地域で循環できれば一役かっているとアピールできる。

会　長　明るい話題としてすごくいい話と思う。

9　施設見学

会議終了後に千厩浄化センターの施設見学を行った。

10　担 当 課　上下水道部下水道課